

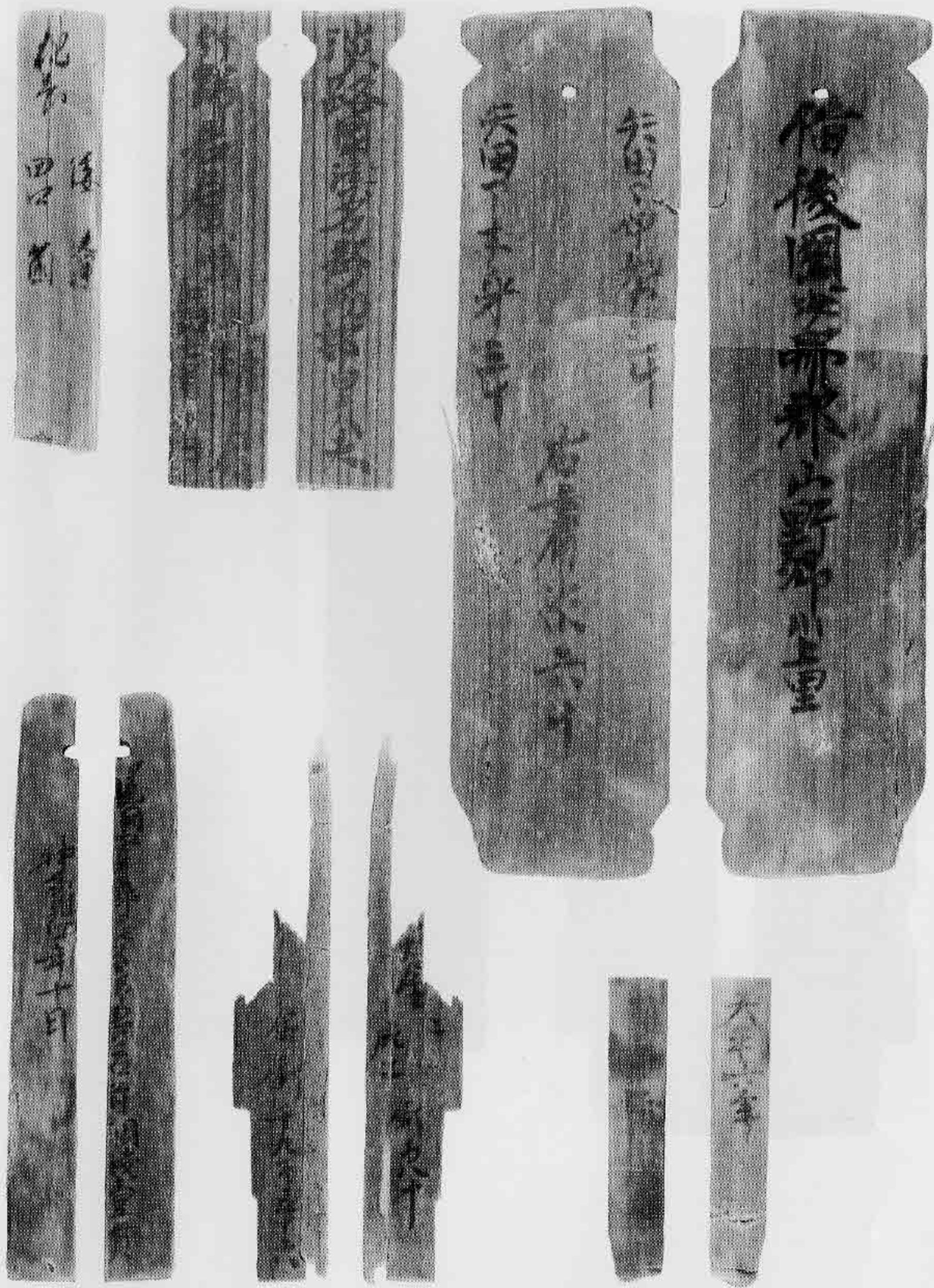
昭和五十六年四月

平城宮発掘調査出土木簡概報(四)

奈良国立文化財研究所



平城宮第122次調査出土木簡（約2：3）



平城宮第120・122・123-4・123-26次調査出土木簡（約2：3）

この概報には、さきに公刊した『平城宮発掘調査出土木簡概報十三』（昭和55年4月）以後、平城宮跡および平城京跡内から出土した木簡の主要なものを収録する。

以下、木簡の出土地域ごとの状況を述べ、木簡の形態分類、凡例と釈文をかかげる。

一、木簡出土の地点と状況

第一二〇次調査（6ALF—P・Q区）

昭和55年1月～5月

平城宮東院の東南部においては、第四四・九九・一一〇次の三度にわたる調査によって、新旧二時期の園池SG5800の存在とその東限・北限そして池に関連する施設の様子が明らかになってきている。今回の調査はさらに池の西辺の様相を明らかにし、合わせて南面大垣・二条条間大路についての知見を得るために行なわれた。

検出した遺構は掘立柱建物一八、塀一四、溝二八、井戸二、池一、通路一で、それらは層位や重複関係からA～Hの八時期に細分できる（『奈良国立文化財研究所年報一九八〇』参照）。全体として今回の調査では、園池SG5800

の全容をつかんだこと、園池とは溝・塀で区切られた西方の一画に八時期の変遷があること、二条条間大路は次第に道路幅を狭められていることが判明した。各時期の年代比定については、B期—天平年間を中心とする時期、D期—平城遷都後の天平勝宝年間の造営、H期—奈良末—平安初頭と考えられる。

出土木簡は計一〇八点で、旧池SG5800Aから四点、掘立柱掘形から数点、二条条間大路南側溝SD5785・5787から各一点の他、九五点が二条条間大路北側溝SD5200A・Bから出土している。SD5200AはF期に約3m南にずらし玉石で護岸するという改修を受けてSD5200Bになっているが、木簡の大部分九〇点はSD5200Aの堆積層から出土した。

第一二二次調査（6AAY区）

昭和55年3月～7月

本調査は、平城宮の推定第二次朝堂院地区の南にある南面東門（壬生門）を対象として行なわれ、合わせて二条大路にも調査の手を及ぼした。

検出したおもな遺構は平城宮外郭の門基壇、それにつづ

く南面大垣、二条大路とその南北両側溝、宮内東西道路、それに平城宮以前の土壙墓・斜行溝、平城宮以後の掘立柱建物である。このうち木簡は計一四六点すべてが二条大路の北側溝S D 1250から出土した。

二条大路北側溝S D 1250は他の遺構とともに三時期に大別できる。A期には幅四・二m、深さ〇・九mの素掘りの東西溝で、発掘区の東寄りには護岸の杭を残している。B期には門基壇の掘込み地業が行なわれた時に、基壇前面の幅三二mの部分の両岸に人頭大の石を五段積み上げて護岸している。そしてC期になると、この護岸部分は完全に埋めたてられ、S D 1250は門の東・西端で止まる浅い素掘りの溝に両断されてしまうのである。溝の埋土はB期までを下層(暗灰砂)・上層(暗灰粘土)に二分でき、木簡は上層から五六点、下層から八〇点の出土を確認している。

このS D 1250の木簡と伴出した遺物で特徴的なのは人形と墨書土器である。人形は門の前面を中心に二〇七点の大量出土をみ、また墨書土器には「兵部」「兵部厨」「兵厨」「民厨」「三番」などの記載があって、南面東門付近の官司推定に有力な史料を提供している。

第一二三―二次調査(右京三条一坊十三坪)

(GACF-T区) 昭和55年4月

本調査は住宅新築に伴う事前調査として実施したもので、調査地は平城京右京三条一坊十二・十三坪の南端にあたる。調査の結果、三条大路及びその北側溝の遺構を検出した。三条大路北側溝は四回の改修の跡が認められ、廃絶の時代の上限を最終期の溝から出土した平城宮VI期(平安時代初頭)の土師器によりおさえることができる。木簡はこの三条大路北側溝中から一点出土したが、墨痕は判読がむずかしい。

第一二三―四次調査(法華寺西南部)

(GBFK-D区) 昭和55年4月～5月

本調査は、宅地造成に伴う事前調査として実施したもので、調査地は法華寺旧境内の西南部分にあたり、阿弥陀浄土院の北西区域で行なった第八〇次調査の北側で、阿弥陀浄土院の北辺の位置にあたる。

検出した遺構は掘立柱塀二条、溝、園池などである。塀は東西に走る一条が、後に近接してやや北につくりかえられている。この東西塀のすぐ南側には幅二・七m、深さ〇

・五mの素掘りの東西溝があり、一方北側には五mおいて南岸をみせる園池を検出した。調査区が狭いためこの池の全容はなお明らかでない。右の東西溝の南は坪境小路の位置にあたり、東西堀は法華寺境内を区画する施設と考えられる。

木簡は東西溝から四四点が木製品・土器・軒瓦等とともに出土し、また園池の埋土からも一点が出土した。出土した土器類は溝・池ともに奈良時代後半のもので占められている。

第一二三―二三次調査（平城京西市跡Ⅰ）

（GASIX） 昭和55年11月～12月

本調査はマンション建設計画に関連して奈良県教育委員会の依頼を受けて実施したもので、大和郡山市九条町において延べ三二〇m²にわたり発掘した。調査地は右京八条二坊五・六・十一・十二坪に比定される平城京西市の西南の隅の十二坪にあたり、坪内の五ヶ所でトレンチ調査を行った。その結果、西市の南を限る八条大路の北側溝、市内の十二坪を南北に二等分する掘立柱東西堀のほか、掘立柱建物三棟などの遺構を検出し、帯金具・和同開珎・神功

開宝・曲物・多量の須恵器・土師器等の遺物を得た。

木簡は西市の南限を東西に走る幅二m、深さ〇・六mの八条大路北側溝（上層）から、削屑三点を含む計五点が出土したが、いずれも判読困難な墨痕をとどめるのみであった。

第一二三―二六次調査（東二坊坊間大路）

（GALHX） 昭和55年12月

本調査は宅地造成に伴う事前調査として実施した。当該地は左京二条二坊五坪の東北隅にあたり、第四四・六八次調査で確認されている平城京東二坊坊間大路西側溝を延長した位置に発掘区を設定した。

検出した遺構は、東二坊坊間大路とその西側溝SD5870、南北溝一条、柱穴二、土壇一である。

木簡は計一八点がすべて東二坊坊間大路西側溝SD5870の下層から出土した。SD5870は幅一・五m、深さ一m弱で肩に段をつけており、西岸には護岸のしがらみを設けていた。同溝出土遺物には木簡の他に、櫛・人形・曲物・独楽型木製品等の木製品、和同開珎・帯金具・飾金具や、奈良時代中期から後期にかけての土師器・須恵器・転用硯、そして緑釉平瓦を含む瓦、一〇点に及ぶ博などがあった。

和」「下」等の墨書土器や「老」の刻印をもつ文字瓦も右に含まれている。なお、木簡と共伴する下層出土の土器は平城宮Ⅲ期（八世紀中葉）のものが中心であった。

第一二五次調査（九条大路）（GAIMⅩ）

昭和55年11月～昭和56年1月

本調査は、平城京九条大路上を通る県道城廻り線の計画に付随した水路つけかえ工事に伴う事前調査として実施した。東西に細長い工事区域に規制されつつ、右京九条一坊の四・五・十二坪の南端部に四ヶ所の発掘区を設定し、条坊関連遺構の検出をめざした。

調査の結果、九条大路・同北側溝、それらに接続する西一坊坊間大路・同西側溝、右京九条一坊四・五坪坪境小路・同側溝、右京九条一坊の南辺築地の雨落溝等の遺構を明らかにすることができた。

木簡はそのうち九条大路北側溝から七点、同側溝と右京九条一坊五坪の東南端の南辺築地南雨落溝との間に検出した井戸から一点の合計八点が出土した。

九条大路北側溝は埋土が下層（灰色粘土）でしがらみの護岸があるA期、同じくしがらみ護岸のみられないB期、

埋土が上層（青灰色砂）のC期の三期に分けられる。出土土器は下層から平城宮Ⅲ期、上層から同Ⅳ期～平安時代初期、同後期～平安時代初頭に相当すると考えられる。この溝からの木簡出土地点は、右京九条一坊四・五坪坪境付近の下層（五点）と、五坪西南隅（二点）の二ヶ所である。井戸出土の木簡には、奈良時代初頭の土器数点が伴出している。

なお、平城宮東院西辺地区の第一二八次調査（GALRⅠのⅩ）昭和56年1月～）においても木簡が出土しつつあるが、現在調査継続中であり本概報には収録しない。

二、木簡の形態分類

6011型式 長方形の材。

6015型式 長方形の材の側面に孔を穿ったもの。

6019型式 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって

原形の失われたもの。原形は6011・6032・6051型式のいずれかと推定される。

6021型式 小形矩形のもの。

6022型式 小形矩形の材の一端を圭頭にしたものを。

6031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みをいれたもの。方頭・圭頭など種々の作り方がある。

6032型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれたもの。
6033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6031・6032・6033型式のいずれかと推定される。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6033・6051型式のいずれかと推定される。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書のあるもの。

6065型式 用途未詳の木製品に墨書のあるもの。

6081型式 折損、割截、腐蝕その他によって原形の判明しないもの。

6091型式 削屑。

三、凡 例

(一) 釈文は出土遺構ごとに掲げる。最上段に出土地点（アルファベット・数字）、つぎの段に形態による型式分類番号（本概報では千位の6を省き、三桁の数字で表わす）をそれぞれ記入した。

(二) 釈文に加えた符号はつぎの通りである。

く く 抹消した字画のあきらかな場合に限り原字の左傍に付した。

■ 抹消により判読困難なもの。

□□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□□□ 欠損文字のうち字数が推定できるもの。

□□□ 欠損文字のうち字数の数えられないもの。

□□□ 記載内容からみて上または下に少くとも一字以上の文字を推定したもの。

「」 異筆、追筆。

し 合点。

・ 木簡の表裏に文字のある場合、その区別を示す。

カ 編者が加えた注で疑問の残るもの。

ママ 文字に疑問はないが意味の通じ難いもの。

〔 〕 校訂に関する注のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

() 右以外の校訂注および説明注。

(三) 釈文の出土地点の上に付した*印は、口絵図版に写真を掲げた木簡を示す。

第一二〇次調査 (GALF-P-Q)

二条条間大路北側溝SD五二〇〇A

86

019

・参向寮家若緩者

・國養老□年二月十日
[真録] [麻呂]

90

011

・大炊司前謹申錦織徳

・足太物者問給由

85

019

・召奴

宇太末呂

□□

・男鳥

右九口

85

019

□□

□□末呂

□□□□

・三月廿九日

88

081

□□縣犬養□宿祢

從五位下典侍余比賣

87

019

・少廣石列 白髪了犬末呂

物了□□

・物了龍末呂早了荒久真

右□

87

065

・□□荒木部 木目人

・□□□□荒木

・伊木伐伐味□□□

86

081

・大万呂 万呂

□□

90

081

万呂□

84

081

□□_正七_位上□□

84

081

・日下了子□□

□□_{若麻呂}□□

QQ 87 081 □□□□□□

・養老五年九月廿日

QQ 86 081 又□部□□□

QQ 84 081 長□二月六日□

QQ 86 091 □月十日

QQ 87 081 □^{但馬}□□□□

□國万呂

・正月二月三月□

* QR 85 039 備後國安那郡山野郷川上里

・矢田了甲努三斗

・矢田了木身三斗

右庸米六斗

QQ 86 039 備中國小□

・米五斗

* QQ 87 032 淡路國津名郡物部里人夫

・竹野君廣嶋大□□□_(三)
和銅七年□日

QQ 86 051 □□郡□□郷山本里□□□□丁□_(三)次丁

□□□□□□□□

QQ 85 039 □□□□□
米六斗

QR 89 081 □右二人□俵

旧池SG五八〇〇A

* PQ 80 081 □屋_二底_二 釘百八十

□合釘千九百五十六

第一二三次調査 (GAAV)

二条大路北側溝SD一二五〇

FP 22 015 右五人進二階正八位下

* CP 15 011 大膳職宮人縣加利祿布_{絶二匹}八端

六月四日□□□□
〔近石〕

CO 14 081 □月廿七日内錢□□
□□□□

人同心□□

CP 15 011 謹解故請 □□□□ 先日受食米

□□□□
〔會所得〕

CP 17 081 □位下 □□□□□□□□
〔七〕

〔大〕

FO 20 081 伴門□□
〔籍〕

CP 15 081 内侍高田丹比門出八日多治□

□□□□□□□□□□□□□□

CP 18 081 □□□□□□□□□□
〔從八位下〕

* CP 18 081 □奴大奥之自家_{浪人集令住事問給申久} □□

□□□□

* FP 21 011 造兵司移衛門府_{大櫓并梓事以前等物脩理已訖宜}

兼狀知以今日令運仍具狀以移

天平三年十二月廿日從七位上行大令史葛井連□足

EP

081

□□□

无位宇治宿^{〔祿〕}

CP

091

□二等

CP

019

送^{〔位〕}□□

送^{〔七〕}□右

□甲

□勘^{〔終〕}京

藏□□^{〔宛〕}

FO

019

知□英陽□□□

EP

061

女^{〔女〕}

依□死□^{〔世〕}

十一^{〔正〕}人□□^{〔宛〕}
□□^{〔宛〕}次隨解額□□

CO

059 天平四年

重病受死

CO

091

備但□

四年

FP

081

□□前^{〔山〕}□□□

*CP

019 天平六年

□□□坊

FO

091

九^{〔九十五〕}□

CO

081 龜四年四月

寶□

FO

091

大伴

FP 20	CP 16	FO 20	CO 14	CP 08	FP 21	CP 18	CP 15
033	051	081	032	039	091	039	039
益珠郡馬道郷石邊玉足	備前國上道郡安度郷立原里 大了□□足三斗 同得□□三斗 并六斗	□ ^{〔磨〕} □國賀茂郡□□郷三和里	但馬國養父郡賀母郷白米五斗	丹波 ^{〔國〕} 天田郡□ ^{〔拜師〕} □□	□ ^{〔上〕} □ ^{〔總國〕}	伊豆國加茂郡□日郷矢田了多米志調□	尾張國智多郡雷具郷
CP 16		CO 18		CP 08	CO 18	CP 17	EP 22
019		032		081	081	081	039
薪□		二斗八升	□	遺米一石四斗四升□	□米三斗	□ ^{〔野掾〕} □□從七位下大伴□□	□□小野里 □□庸米六斗
						□位下石川東人	

DC 40 081 兵衛狛弟山乙乙乙乙

□

019 □ □ □ □ 所六人

DC 40 091 □月十三日

□ □

081 □ 勘病无國□比

DC 40 091 從五下

081 □ 萬里□為□

DC 39 091 □^會□下川石□□

□ □ □ □ □ □ 朝□

DC 39 061 廣石

第一二五次調査 (GAIM)

第一二三—二六次調査 (GALH)

九条大路北側溝

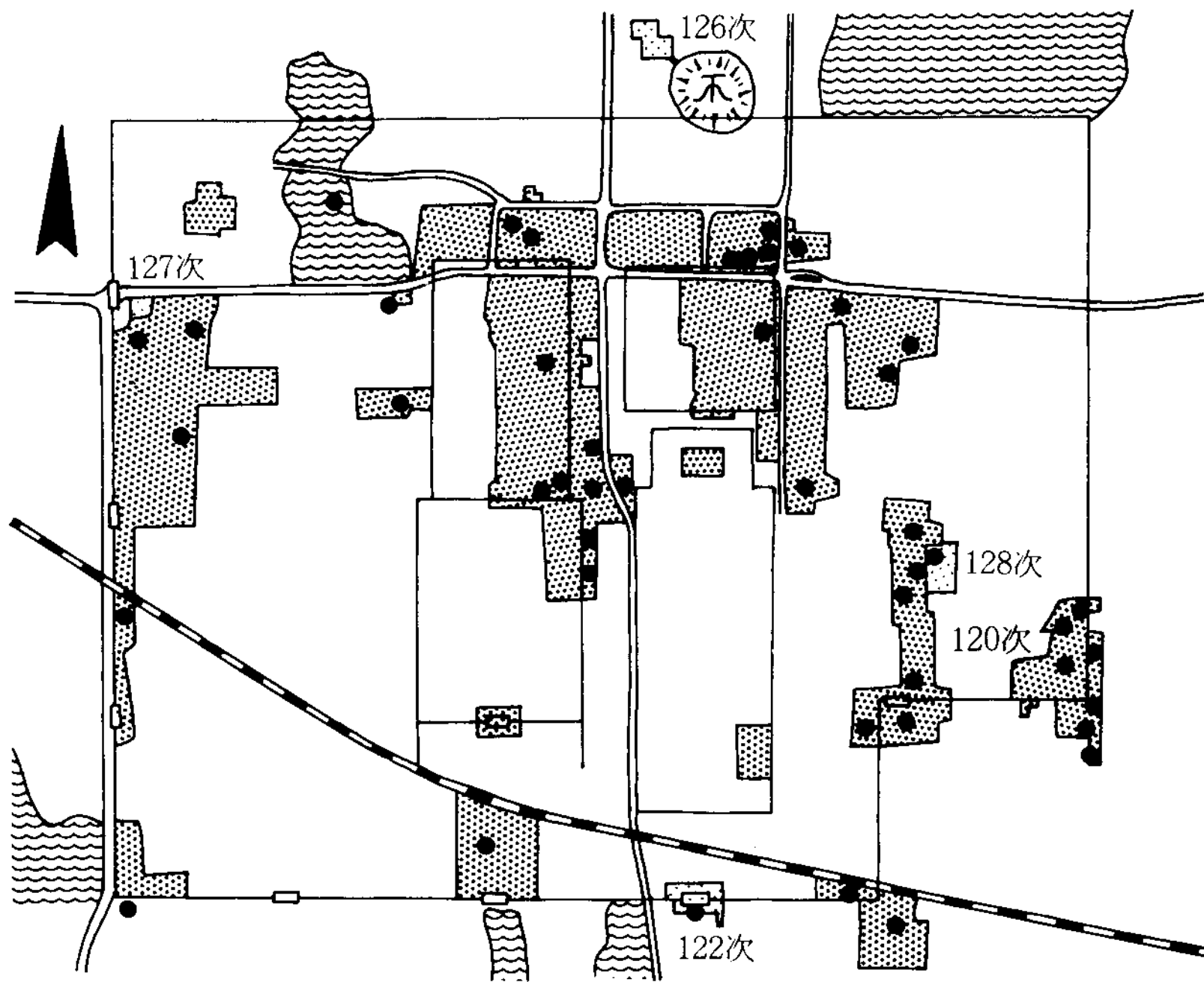
東二坊坊間大路西側溝SD五八七〇

081 □ □ □ 道在道行




* 011 伊勢國安濃郡長富郷甲可石前調錢壹貫

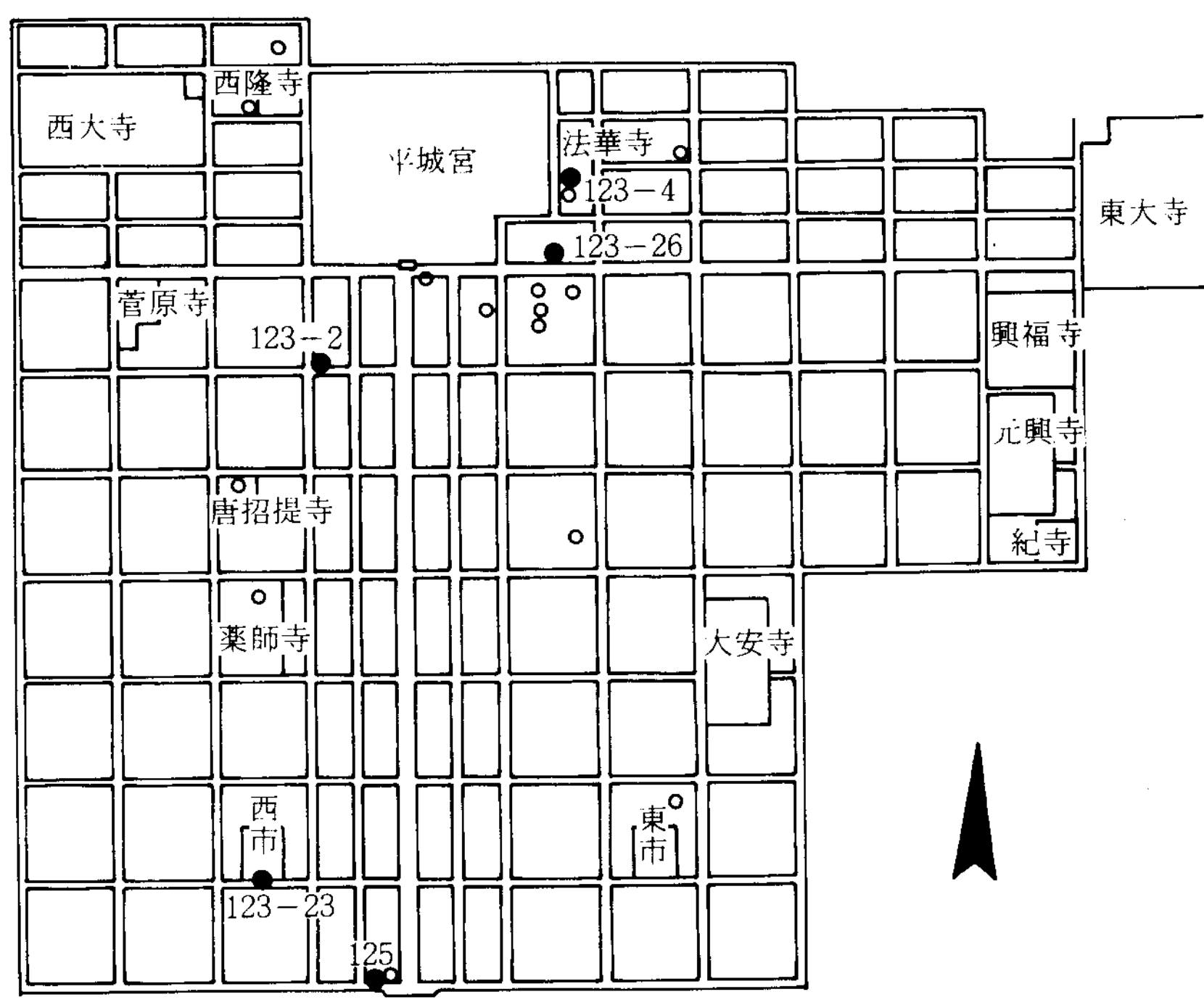
□ □ □ 為^約□ □ □

神龜四年十月





平城宮木簡出土地点略図

-  既発掘地
-  昭和55年度発掘地
-  木簡出土地点



平城京木簡出土地点略図

-  木簡出土地
-  昭和55年度木簡出土地